第５回行政評価委員会

No.10　特別支援教育事業

番号	質問内容
10-1	成果指標（アウトカム）とは、事業の目的がどれだけ達成されたかを客観的に測る「真の効果の物差し」です。指標は、単なる活動量ではなく、目的に直結する変化をロジックモデル等から逆算し、客観的な数値として決定されるべきです。つまり、成果指標とは、行政の自己満足を排し、「市民の税金が真に価値ある変化を生み出したかを示す最終的な通信簿」と言えます。 当事業においては「活動成果の達成度を測る指標」として『特別支援教育の効果的な執行に資するため、計画と実績との比較を成果指標として扱うこととする』と目標100人が定められていますが、『計画と実績との比較（100人)』の内容が不明瞭であり、実質的な事業効果の測定を検証できません。 まず、この目標100人とは何の人数でしょうか？ 次にこの100人はどのように決定されたのでしょうか？ また、毎年度目標値も実績値も同様に100人となっていますが、これでは行政側の都合で簡単に操作ができる数値ではないかとの疑いがもたれます。これで成果指標としての機能を本当に果たしていると言えるのでしょうか？
10-2	事業活動の成果において指標②は何の記載もないにもかかわらず、達成度だけ『かなり達成(80%以上)』と記載されていますが、これは何を意味しているのでしょうか？
10-3	成果指標が妥当であるか否かは別にして、少なくともこのマネージメントシート上では成果目標は達成されていると見れます。にもかかわらず、事務事業の評価において「成果指標の達成状況」が『３　概ね達成できた（80%以上の達成)』との評価になっているのはどのような理由によるのでしょうか？
10-4	成果指標に関しましては上記に記載の通り多くの問題点が見受けられます。一次判定者及び二次判定者はこの指標の記載及びここから導き出された事務事業の評価について何も疑問を持たずに自らの評価をなされたのでしょうか？

番号	質問内容
10-5	事業の目的が『地域における特別支援教育の推進と教育機能の充実』である以上、成果指標を「支援を通じた課題解決率」や「教員の特別支援スキル向上度（アンケート等)」などにすべきではないかと考えられますが、担当課としての意見をお聞かせください。
10-6	活動指標②の相談人数は目標値よりも多い方が達成になるのでしょうか、それとも少なければ達成になるのでしょうか？ そもそもこの達成とは何を意味しているのでしょうか？ また、「令和 5 年度の振り返り」に『教育相談を希望する児童生徒が増加し、外部からの相談員や指導員によるサポートが不可欠となっている。』と記載されています。ただ、令和 6 年度以降は年々減少（令和 5 年度 51 人→令和 6 度 48 人→令和 7 年度 46 人）してきています。これは、令和 5 年度をピークとしてその後は減少しているという事でしょうか？ もしそうだとすると、減少してきている理由をどのように把握されていますか？
10-7	もし「相談待機者数の推移データ」や「1 件あたりの相談所要時間のデータ」がありましたらご提示ください。
10-8	前回評価は「現状維持」で今回も二次判定は「現状のまま継続」となっていますが、事業費は毎年 10%程度増加（R5 年度 12,306 千円→R6 年度 14,969 千円→R7 年度 16,243 千円→R8 年度 18,878 千円）しています。このまま現状維持にもかかわらず予算が増加していけば他の事業にも影響を与える可能性も懸念されますが、内容は現状維持で予算額だけが毎年 10%以上膨らんでいっている状況をどのように考えられていますか？
10-9	教育相談員の人数と経験年数を教えてください。
10-10	相談員になる為の資格や試験が有れば教えてください。
10-11	相談員がレベルアップするカリキュラムを教えてください。また福祉や医療の専門家との交流会があるか教えてください。
10-12	伊予市内全域において「特別な教育的支援を必要とする児童生徒の人数」はどのくらいいるのでしょうか。年度ごとの推移もわかるとなおよいです。

番号	質問内容
10-13	成果指標の「計画と実績との比較」の数字の設定・算出方法を教えてください。単位が「人」で、目標も実績も「100」となっていますが、どのような計算によりこの数字を算出しているかの確認です。

No.11　文化財保護事業

番号	質問内容
11-1	事業の目的が『貴重な国民的財産である文化財を後世に確実に受け継いでいけるよう、調査や保護、普及啓発に努める。』である以上、「YouTube 動画の再生回数」を成果指標とするのは妥当とは思えません。動画の再生回数（令和 7 年度：約 2,885 回）は単なる活動結果であり、文化財の調査や保護、普及啓発という本来の目的達成度を示しているとは言えません。 例えば「文化財体験講座受講者の行動変容（関連施設への訪問率等）」や「地域学習への実際の導入件数」など、実質的な活用実態を測るものに変更すべき考えられますが、担当課としての意見をお聞かせください。 また、令和 6 年度の実績が『動画 5 点　総視聴回数約 1,017 回』であるにもかかわらず令和 7 年度の目標を前年度同様に『動画 2 点　総視聴回数約 200 回』としているのは、達成可能性を考慮して作為的な目標値設定とみられても仕方がないと思われますが、この点についてはどのようにお考えでしょうか？
11-2	事業の目的が『貴重な国民的財産である文化財を後世に確実に受け継いでいけるよう、調査や保護、普及啓発に努める。』である以上、「国・県・市指定文化財の新規指定件数」を成果指標とするのは必ずしも誤りであるとは言えません。ただ、目標値が 0 件若しくは 1 件しかないものを成果指標とすることが果たして妥当であると言えるのでしょうか？担当課としての意見をお聞かせください。
11-3	振り返りや所見欄において「未実施の学校が依然として多い（令和 6 年度)」「専門員 1 名のマンパワーの限界が顕在化（令和 7 年度)」「未調査・未整理資料も多く（所属長の所見)」といった本質的な課題を多数列挙しています。それにもかかわらず、「有効性（成果指標の達成状況)」の項目には最高ランク（4　目標を上回って達成できた（100%以上の達成)）となっています。これは、達成しやすかった指標（動画再生回数）を使用したことによるものと追われます。未達成の課題を評価に反映できなかったため、結果として「成果の過大報告」になっていると思われますが、マネージメントシートはこれで問題ないとお考えでしょうか？

番号	質問内容
11-4	「令和5、6年度の振り返り」に『学校教育における授業等での対応は1件にとどまった。』『学校対応は3校に増加したものの、未実施の学校が依然として多い。』とありますが、「令和7年度の振り返り」に学校対応についての記載がありません。問題点として記載している以上この内容について継続して記載すべきではないでしょうか？ 現状では令和7年度に改善されたのか改善できなかったのかが判断できません。
11-5	所管部長の所見に『「公的資金の獲得」と「民間活力の活用」を組み合わせた「重層的な資金調達モデル」の構築築について研究・検討』とありますが、興味深い着眼点だと思います。そこで、現時点でどのようなものを想定しているのか現時点での研究・検討の結果をお示しください。 また、どこか参考としたい（若しくはしている）自治体の事例がありましたら教えてください。
11-6	伊予市の中学校と高校に郷土資料研究会や地域研究部の活動クラブはありますか。
11-7	成果指標の2つ目「YouTube動画の再生回数」について、目標に対して実績が大幅に上回っています。これだけの実績があるなら、目標を上方修正することも考えられると思いますが、この先の目標はどの程度の数字を目指しているでしょうか。
11-8	YouTubeの動画作成は、専門員の方が行っているのでしょうか、それとも外部委託でしょうか。

No.12　ふたみシーサイド公園管理運営事業

番号	質問内容
12-1	事業の目的は『伊予市における観光振興の重要拠点として、市内観光情報の提供や特産品の展示販売を行い、年間を通じてイベントの開催や情報発信を行う。』ですが、成果指標の欄には『来園者による市産品の販売や市ブランド品の購入による地域内の経済指標や、道の駅の機能の1つである道路利用者の休憩場所としての役割を果たしている。』と記載されているだけです。成果指標に具体的な数値が一切設定されておらず、費用対効果の検証が放棄されている状態と言えます。これが果たして成果指標と言えるのでしょうか？ 成果指標には可能な限り目標数値や実績値を記載すべきです。当事業の場合、必ずしも定量的指標を設定・測定することが困難であるとは言えないと思います。例えば「施設内での市産品売上高」「テナント稼働率」「指定管理者からの納付金額」など、定量的かつ直接的な経済指標を成果指標として設定すべきと思われますが、担当課としての意見をお聞かせください。
12-2	活動指標である「観光入込客数」は目標21.8万人に対し、令和7年度実績は17.1万人強まで減少しています。空きテナントの解消を課題として挙げていますが、具体的な数値目標がないため、指定管理者の経営改善に向けたインセンティブや評価の基準が存在しません。 指定管理者の運営能力と財務的影響を正確に評価するため指定管理者の収支決算書（売上高、利益、市への還元額の推移）」及び「空きテナントの区画数・空室期間とそれによる逸失利益の試算データ」をご提示ください。
12-3	所管部長の所見には『減少傾向にある入込客数の回復や冬場の集客、空きテナント解消といった課題に対し』と当事業の課題がしっかりと記載されていますが、空きテナントの解消や観光入込客数の減少と言った問題点が明らかであるにもかかわらず、事業の評価に反映されず「事業遂行に係る課題・改善点」にも何らその点の記載がありません。 担当者の記載の多くは『計画的な修繕改修』関係です。もう少し空きテナントや観光入込客数と言った本質的な問題に目を向け、その改善策をデータに基づき真剣に検討すべきではないでしょうか？

番号	質問内容
12-4	マネージメントシートは市民の税金が「何に使われたか（消化）」だけでなく、「どのようなリターン（価値）を生み出したか」を客観的数値で示し、行政の透明性と信頼性を担保するための強力なツールとして公開・活用すべきものだと考えています。 当事業においては毎年度15百万円程度の予算が事業費として使われていますが、このマネージメントシートで市民への説明責任（アカウンタビリティ）を十分に果たせているとお考えでしょうか？
12-5	R7年度3月観光入込客数の激減理由が分かれば教えてください。
12-6	過去、冬場に実施したイベント内容が有れば教えてください。
12-7	R8年度の指定管理者の応募は何社で、また運送会社に決定した経緯は何でしょうか。
12-8	地域への経済効果を測定するという観点では、「観光入込客数」だけではなく、「施設での売上額」も重要かと思いますが、売上額は把握可能でしょうか。
12-9	地域経済という観点では、いよし特産品認定ブランドの周知も重要ですが、特に地元である双海地域の商品のPRも重要と考えられます。地元産業の振興のための連携体制はどのように構築されているか教えてください。